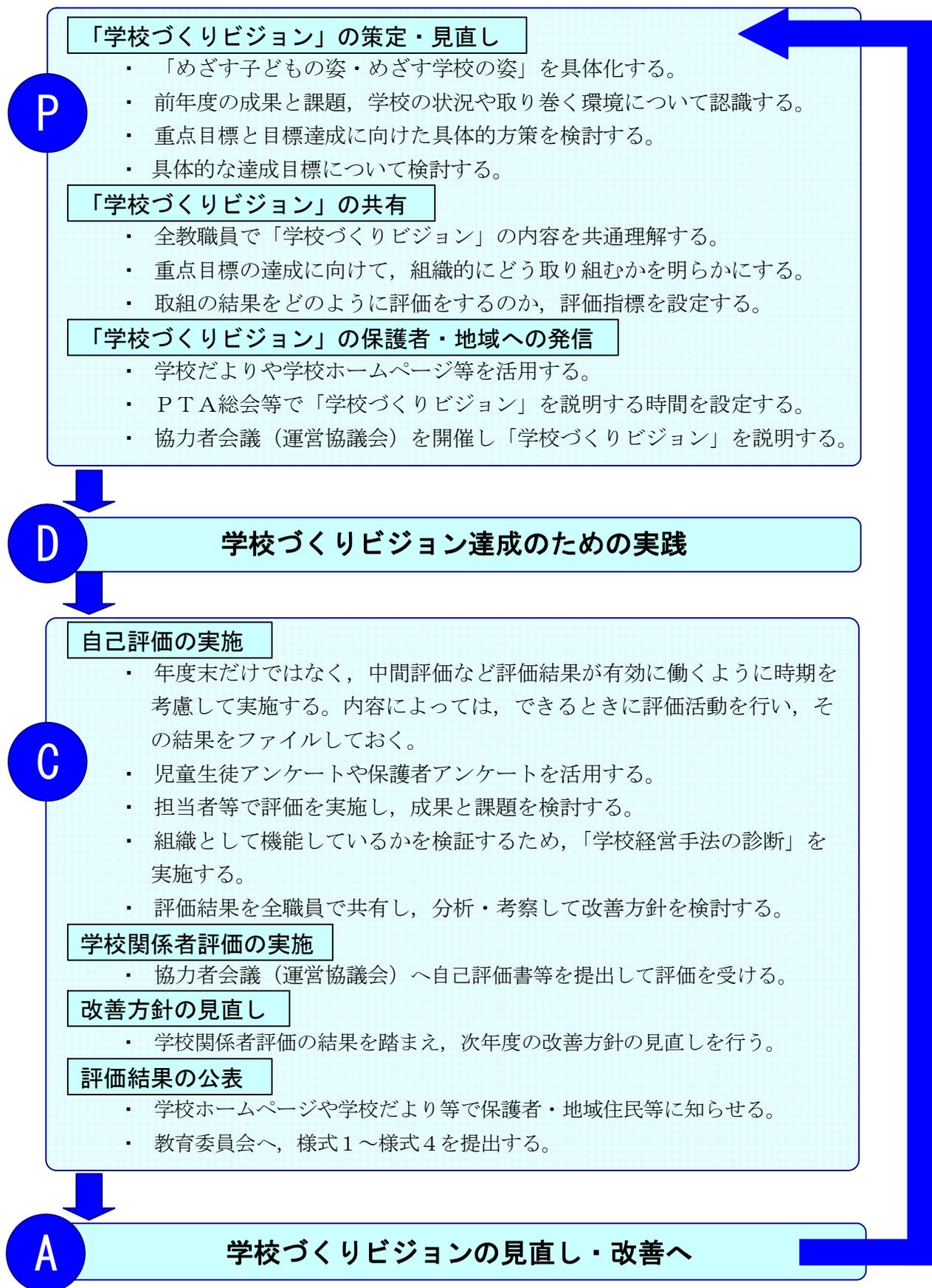


<参考資料>

○ 学校評価フロー図



○ 学校評価年間計画例

4月	<p><Plan(「学校づくりビジョン」の策定)></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新年度学校評価委員会(仮称)の設置 ○ 前年度の評価結果の把握, 現状分析 ○ 「学校づくりビジョン」の策定 重点目標, 具体的方策, 実施計画等に基づく評価項目の設定 ○ PTA総会等で「学校づくりビジョン」の説明
5月	<p><Do(実践)></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 第1回学校づくり協力者会議(コミュニティスクール運営協議会)にて, 「学校づくりビジョン」の説明及び意見交換(承認) ○ 「学校づくりビジョン」の重点目標に基づく具体的方策の実行 ○ 学校だよりや学校ホームページ等による情報発信(随時) ○ 評価資料の累積(随時)
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校公開の実施(随時) ※ 学校評価担当者研修会・学校づくり協力者会議委員研修会(市教育委員会主催)
7月	<p><Check(評価)></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 中間的な評価の実施
8月	<p><Action(改善)></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 中間的な評価結果に基づく具体的な改善方針の策定 ○ 学校評価にかかわる校内研修会の開催 ○ 「学校経営手法の診断」の実施
9月	<p><Do(実践)></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 第2回学校づくり協力者会議等での中間的な評価結果の検証及び改善点の説明 ○ 改善策に基づく具体的方策の実行
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学年末の自己評価に向けた資料の累積(随時)
11月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校評価委員会にて, 保護者, 児童・生徒アンケート項目の設定
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校評価に関わる校内研修会の開催 ○ 「学校経営手法の診断」の実施
1月	<p><Check(評価)></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自己評価及び保護者, 児童・生徒アンケートの実施及び集計
2月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己評価書の作成 ○ 「学校教育活動の評価」の実施 ○ 第3回学校づくり協力者会議等にて, 「学校関係者評価」の実施
3月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己評価書・学校関係者評価書をもとに, 今年度の成果と課題の整理 ○ 次年度の改善方針の策定 ○ 評価結果の公表・説明(学校だより, 学校ホームページ等) <p><Action(改善)></p>

○ 保護者アンケートを実施する上での留意点

- 1 対象者が回答に悩まないように、わかりやすい文言で質問することが大切です。
 - ① 保護者に尋ねる目的がはっきりしていますか。
 - 「学校づくりビジョン」の重点目標の指標とするのか。
 - 「学校経営手法の診断」の指標とするのか。
 - 学校経営の基礎資料とするのか。
 - ② 保護者にアンケートで聞くことが適切な項目ですか。
 - 保護者が責任を持って回答できるものであるのか。
 - 保護者以外の人（児童生徒等）に聞く方が適切ではないか。
 - 教職員が評価することではないか。
 - 懇談会等で意見聴取することができない内容なのか。
 - ③ 質問文は適切ですか。
 - 1つの質問で複数の事柄を聞いていないか。
 - 読み手によって解釈が違ふような、曖昧な表現を使っていないか。
 - 回答を誘導するような表現になっていないか。
 - 回答者にとってわかりづらい用語や略語を使っていないか。
- 2 回答の選択肢を、3択または5択にすると、回答が中央に集中する傾向が強まります。よって4択が適切と考えます。
- 3 自由記述欄を設けることで、アンケート項目以外の意見を収集することができます。
- 4 的確な回答を得るためには、積極的な情報発信が必要です。アンケート項目によっては、補足的な説明を入れておくことも効果的です。
- 5 アンケートの実施にあたっては、匿名性の担保に十分配慮します。
- 6 保護者アンケートは、家庭数ではなく児童生徒数で行います。集計は大変ですが、正確に学級ごとの取組を評価してもらえます。ただし、兄弟姉妹が在籍する保護者への理解を得るようにします。
- 7 結果を集計するだけでなく、前回や前年度、県や国の状況等と比較しながら、原因等を分析し、改善に向けて方策を検討することが重要です。
- 8 アンケート項目数が多い場合、保護者のみならず、集計する教職員にも大きな負担となります。よって、学校改善に役立つための項目に絞ります。
- 9 最後に、以下の事例を紹介します。
 - 例1・「学校だよりやホームページ等で、学校の様子をわかりやすく伝えてありますか。」
 - ・「お子さんは、家庭や地域できちんとあいさつができますか。」
→学校づくりビジョンの重点を自己評価するための指標の一つと考えられます。
 - ・「学校は、情報提供を積極的に行うなど、信頼関係を高める取組を行っていますか。」
→「学校経営手法の診断」の3-②の指標の一つと考えられます。
 - 例2・「学校は授業をわかりやすく教えていますか。」
→普段、授業を見ていない保護者にはわかりにくく、むしろ子どもに聞くべき指標です。
 - 例3・「学年に応じた学力が身についていますか。」
→判断、評価するのは教職員であり、学校が保護者に説明すべき指標です。

○ 学校評価に関する法の規定

学校評価については、学校教育法及び学校教育法施行規則に次のように規定されています。

○ 学校教育法（平成 19 年 6 月 26 日公布 平成 19 年 12 月 26 日施行）

第 42 条 小学校は、文部科学大臣の定めるところにより当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため、必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならない。

第 43 条 小学校は、当該小学校に関する保護者及び地域住民その他の関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力に資するため、当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を積極的に提供するものとする。

※これらの規定は、幼稚園、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校等に準用する。

○ 学校教育法施行規則（平成 19 年 10 月 30 日公布 平成 19 年 12 月 26 日施行）

第 5 節 学校評価

第 66 条 小学校は、当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について、自ら評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の評価を行うに当たっては、小学校は、その実情に応じ、適切な項目を設定して行うものとする。

第 67 条 小学校は、前条第 1 項の規定による評価の結果を踏まえた当該小学校の児童の保護者、その他の当該小学校の関係者（当該学校の職員を除く。）による評価を行い、その結果を公表するよう努めるものとする。

第 68 条 小学校は、第 66 条第 1 項の規定による評価の結果及び前条の規定により評価を行った場合はその結果を、当該小学校の設置者に報告するものとする。

※これらの規定は、幼稚園、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校等に準用する。

以上のことにより、各学校は法令上、次のように学校評価や情報発信を行います。

- ① 教職員による自己評価を行い、その結果を公表すること。
- ② 保護者・地域住民等の学校関係者による評価（学校関係者評価）を行うとともに、その結果を公表するよう努めること。
- ③ 自己評価・学校関係者評価の結果を設置者（教育委員会）に報告すること。
- ④ 学校の教育活動、学校運営の状況に関する情報を、保護者・地域住民等に積極的に発信すること。

【様式1】

自己評価書

四日市市立〇〇〇学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

		4・3・2・1
主な方策 成果と課題		

重点目標 2		4・3・2・1
主な方策 成果と課題		

重点目標 3		4・3・2・1
主な方策 成果と課題		

重点目標 4		4・3・2・1
主な方策 成果と課題		

重点目標 5		4・3・2・1
主な方策 成果と課題		

2 改善方針

--

【様式2】

学校教育活動の評価

四日市市立〇〇〇学校

1 教育課程の状況等

項目	内 容	評価
①教育課程の編成・実施	子どもの実態を的確に把握・分析して教育課題を明確にし、教職員が一致協力して教育課程を編成するとともに適切に実施することができた。	4・3・2・1
②幼保小中での連携した取組【重点①-2】	幼保小中で連携することにより、授業改善と教職員の意識改革を進め、一貫性のある教育の推進ができた。	4・3・2・1

2 各教科等の指導

項目	内 容	評価
①毎日の授業【重点①-1】	授業で子どもを生かす工夫をし、教材と実生活における事象との関連を図るなどして、分かりやすい、丁寧な授業を行うことができた。	4・3・2・1
②確かな学力の定着【重点①-1】	基礎的・基本的な知識・技能を身につける教育、自ら学び自ら考える力を育成する教育を進め、確かな学力を定着させるための授業改善を図ることができた。	4・3・2・1
③学び合う学習【重点①-1】	一人一人の子どもに自分の思いや考えを確かに持たせる時間を確保するとともに、子ども相互がかかわり、学びを深め、広げる学習形態や指導の工夫を図ることができた。	4・3・2・1
④問題解決的・体験的な学習【重点①-1】	子どもの内的な疑問を生かし、体験的な学習や基礎的・基本的な知識や技能を活用した問題解決的な学習を重視するとともに、児童生徒の興味・関心を高め、自主的、自発的な学習を促進することができた。	4・3・2・1
⑤言語活動の充実	思考力・判断力・表現力等をはぐくむため、意図的・計画的にねらいをもって言語活動に取り組むとともに、言語環境の整備に努めることができた。	4・3・2・1
⑥個に応じた指導	個別指導やグループ別指導、学習内容の習熟の程度に応じた指導、繰り返し指導、補充的な学習や発展的な学習などを積極的に取り入れ、指導を行うことができた。	4・3・2・1
⑦目標に準拠した評価	評価の方法等を学校全体で共有し、評価が児童生徒の「自己学習力の向上」と教師の指導の改善に生かされるよう、指導と評価の一体化を図ることができた。	4・3・2・1
⑧ICTを活用した授業の充実【重点①-3】	子どもにとって「わかりやすい授業」を実現するため、教員が効果的にICTを活用するとともに、子どもがICTを活用しながら共に学び合う場を設定できた。	4・3・2・1
⑨外国語活動・英語教育の推進【重点①-4】	子どもと英語指導員との効果的なかわりを工夫した。また、外国の文化や生活への興味や理解を深め、コミュニケーション能力を高めるための取組を推進(小学校においては、コミュニケーションの素地を養うよう取組を推進)できた。	4・3・2・1
⑩少人数による授業【重点①-5】	少人数だからこそできる効果的な指導方法や内容等を検討し、少人数授業やティーム・ティーチング等その体制を生かしたきめ細かい行き届いた指導を行うことができた。	4・3・2・1
⑪体力の向上【重点③-2】	運動のおもしろさなどを味わわせるための活動や場の工夫を図るとともに、体力向上のための取組の充実を図ることができた。	4・3・2・1
⑫道徳教育【重点②-2】	全体計画及び発達段階に応じたねらいや資料を明確に位置付けた年間指導計画に基づいて指導することができた。	4・3・2・1
⑬特別活動	子どもの人間形成のために、自主的・実践的な活動を助長し、適切な集団活動を行うことができた。	4・3・2・1
⑭総合的な学習の時間	地域や学校、子どもの実態等に応じた課題、横断的・総合的な課題を探究のスパイラルに沿って展開する単元の計画・指導を行うことができた。	4・3・2・1
⑮読書活動【重点②-4】	読書活動の活性化を図るために、図書館司書やボランティアの協力を得ながら、図書館の計画的な利用や読書活動の推進に努めることができた。	4・3・2・1
⑯体験活動の充実【重点②-5】	子どもたちの社会性や豊かな人間性、自ら学び自ら考える力などをはぐくむため、教科等の指導において体験活動を効果的に取り入れることができた。	4・3・2・1

3 生徒指導 【重点②-1】

項目	内 容	評価
①指導体制	担当者(生徒指導委員会等)を中心にして、全教職員で取り組む組織的・機能的な体制により指導にあたることができた。	4・3・2・1
②教育相談	教職員による教育相談を子どもに実施するとともに、スクールカウンセラー等を活用し、いじめ、不登校、虐待等の未然防止と早期発見や解決に努めることができた。	4・3・2・1

4 人権教育 【重点②－3】

項目	内 容	評価
①観点の明確化	人権について理解・認識を深め、人権を尊重する意欲・態度を育成するために、すべての教育活動を通じて人権教育を実践することができた。	4・3・2・1
②教職員の人権意識	豊かな人権意識を身につけて、学校や地域における人権教育を推進することができた。	4・3・2・1

5 健康教育

項目	内 容	評価
①健康教育 【重点③－1】	学校保健に関わる教職員の協力体制を強化し、学校保健計画・食に関する計画・学校安全計画等と関連づけながら計画的・継続的に指導することができた。	4・3・2・1
②食育【重点③－3】	食に関する指導計画のもと、給食の時間をはじめ、各教科・領域など、学校教育活動全体を通じて食に関する指導を実践することができた。	4・3・2・1
③安全教育 【重点③－4】	教育活動全体を通じて、身近な生活における安全への知識や実践力を高めるよう指導ができた。	4・3・2・1

6 特別支援教育【重点④】

項目	内 容	評価
①支援体制	子どもの支援について、校内委員会や中学校区で協議したり、外部の専門家を活用したりするなど、全教職員の共通理解のもとに支援体制の充実を図ることができた。	4・3・2・1
②具体的な支援	特別な教育的支援が必要な子どもに対する相談支援ファイルを作成し、保護者や関係機関と連携して支援に努めることができた。	4・3・2・1

7 現代的な課題に対応した教育活動

項目	内 容	評価
①キャリア教育 【重点⑥－1】	さまざまな学習活動(職業体験、係・当番活動の役割を果たすこと等)を通して、自らの「生き方・働き方」を考える力を育てることができた。	4・3・2・1
②多文化共生教育 【重点⑥－3】	郷土や我が国の文化を大切にするとともに異なる文化や習慣を理解し、子どもたちが互いを認め合いながら、共に生活できるよう取組を進めることができた。	4・3・2・1
③環境教育 【重点⑥－2】	身近な素材から出発し、社会参加につながる取組を、学校・家庭・地域の連携のもとで進めることができた。	4・3・2・1
④福祉教育	互いに支え合う共生社会の実現をめざした実践的態度を育てるために、さまざまな人とのふれあいを大切に活動に取り組むことができた。	4・3・2・1

8 校内(校区内)研修の推進【重点⑧】

項目	内 容	評価
①教師力向上サポートブックの活用による研修	自己分析をもとに個人目標を設定し、管理職の助言や同僚との相互研鑽によるOJTを推進し、得た知識や技能を実践で活用することができた。	4・3・2・1
②計画的・継続的な実施	研修主題を教職員の共通理解のもとに設定し、学校・校区の実態や課題、教職員のニーズに合った研修会を計画的に実施することができた。	4・3・2・1
③工夫・改善	子どもの変容や具体的資料を分析することで学校・校区の教育課題を的確に把握し、その解決に向けて指導方法の組織的な(学校・校区での)工夫や改善に努めることができた。	4・3・2・1
④授業公開や実践交流の推進	校区内研修・校内全体研修・学年研修など多様なレベルで、教職員全員が年1回以上授業公開等を行い、授業のねらいや内容、指導等について分析・検証する授業研究を行うことができた。	4・3・2・1

9 教育活動の総括または改善方向

--

【様式3】

学校経営手法の診断

(〇〇〇学校)

1 リーダーシップ

学校づくりビジョンを明らかにし、教職員がそれに向かって取り組むよう、リーダーシップが発揮されている。		4・3・2・1
指標	①学校づくりビジョンを明確に示され、教職員に浸透している。	
	②学校づくりビジョンを保護者や地域の方々などにわかりやすく伝え、理解されている。	
	③対話を促進し、自由闊達な職場風土をはぐくんでいる。	
	④学校としての重要な目標の達成度を定期的に確認し、課題の検討を行い、改善につなげている。	

2 家庭や地域の信頼に応える学校づくり

学校は、社会からの要請に対応するための取組を行っている。また、地域社会から信頼されるための取組を行っている。		4・3・2・1
指標	①情報提供を積極的に行うなど、学校経営の透明性を確保し、地域に開かれた学校づくりを行っている。	
	②教職員の倫理観や法令・社会的規範を遵守する意識を高める取組を行っている。	
	③整理・整頓・清掃を基本とした環境に配慮した学校経営を行っている。	
	④地域から信頼を得るための取組を進め、良好な連携、協力関係を築いている。	

3 「学習者」(幼児児童生徒、保護者、地域の方々等)とのコミュニケーション

学校は、学習者の要望や期待を確認、発見し続け、「学習者」とのコミュニケーションの機会を増やし、信頼関係を築いている。また、学校の活動にどの程度満足しているかを把握している。		4・3・2・1
指標	①「学習者」の現在及び将来にわたる要望や期待を具体的に把握している。	
	②情報提供を積極的に行うなど、「学習者」との信頼関係を高める取組を行っている。	
	③「学習者」が意見や要望、苦情等を学校に伝えやすくするための工夫や取組を行っている。	
	④「学習者」からの意見や要望、苦情等があった場合に学校として組織的かつ速やかに対応している。	
	⑤「学習者」が学校の何にどの程度満足しているのかを定期的に把握し、結果を分析して改善につなげている。	

4 計画の策定と展開

学校は、学校づくりビジョンの実現に向けて、実施計画を適切に策定している。また、実施計画から教職員一人一人の具体的な行動につなげられている。		4・3・2・1
指標	①学校づくりビジョンに、昨年度の評価結果や学習者等の要望・期待、社会情勢の変化等を適切に反映させている。	
	②学校づくりビジョンを策定する際には、全ての教職員に参加を求め、理解と納得を得た実現可能な計画としている。	
	③実施計画が学校づくりビジョンに照らし、一貫性と整合性のあるものとなっている。	
	④実施計画に、具体的な達成目標を掲げ、進捗度を定期的に把握している。	
	⑤学校づくりビジョンや実施計画に基いた個人レベルの目標設定や行動計画の策定がなされている。	

5 人材育成と組織能力の向上

学校は、教職員のやる気を引き出し、組織全体の能力を高める取り組みを行うとともに、学校づくりビジョンの実現や教職員のキャリア形成に向けた人材育成に取り組んでいる。また、教職員の満足度を把握し、改善を図っている。		4・3・2・1
指標	①「めざす子どもの姿・めざす学校の姿」の実現のため、各々の教職員が、自身にどのような資質・能力が求められているかについて、理解・納得している。	
	②教職員一人一人の自己実現や能力開発に関するニーズと現状を把握したうえで、専門的指導能力等の育成や取組意欲の向上について支援している。	
	③組織全体の能力を高めるため、教職員同士の授業研究をはじめとしたOJT研修が日常的に行われている。	
	④全ての教職員の学校経営への参画意欲や貢献意欲を高めている。	
	⑤意欲的な取組を行っている教職員やグループの活動を認めるなど、教職員のやる気を引き出す工夫を講じている。	
	⑥教職員の満足度を定期的に把握し、満足要因・不満足要因を分析して改善につなげている。	

6 仕事の進め方

学校は、「学習者」の視点から仕事の進め方や手順を常に見直している。また、学校にかかわる様々な方々と価値観や目標を共有し、よきパートナーとして活動に取り組んでいる。		4・3・2・1
指標	①各分掌（事務を含む）、学年、教科等が互いの連携・協力を意識し、「よりよい仕事の進め方」のための改善に取り組んでいる。	
	②わかりやすい授業を行うため、指導計画や指導方法の研究・改善などに、学校全体として取り組んでいる。	
	③いじめ、不登校、学級崩壊等の学校の課題に対し、学級、学年、分掌を越えて、組織的に対応している。	
	④前例踏襲を検証し、業務や会議等の精選や効率化などに取り組んでいる。	
	⑤事故、事件、災害等のリスクに対し、迅速かつ適切な対応が学校全体として行える体制が整備され、教職員に徹底されている。	
	⑥地域、関係機関などのパートナーとの連携を常に意識し、協力関係を維持・向上させている。	

7 情報の管理と活用

学校は、必要な情報・データを効率的に収集、分析、共有し、有用で適正な活用ができるようにしている。また、情報インフラ（インターネット等の情報基盤）を情報公開や業務効率の改善に活用している。		4・3・2・1
指標	①学校にとって必要な情報・データが的確に収集され、分析されている。	
	②学校にとって必要な情報・データがわかりやすく分類され、教職員に共有されて、活用できる状態になっている。	
	③収集した情報・データを適正に管理し、定期的に検証して適切に更新している。	
	④個人情報等の機密情報が適正に管理、活用されるよう、情報セキュリティやマニュアル化等の対策が講じられている。	
	⑤優れた取組を行っている事例の研究を、ベンチマーキングなどを活用して積極的に行い、学校経営の改善に活用している。	

- ◇ 評価欄には、各事項についての学校の現状を○△で評価してください。
 ○…ありがたい姿や学校づくりビジョンの実現に向けて、概ねうまくいっていると感じている。
 △…ありがたい姿や学校づくりビジョンの実現に向けて、あまりうまくいっていないと感じている。

- ※ の項目については、必ず評価をしてください。
 の項目についての評価は、学校の取組状況に応じて実施してください。

- ◆ 学校経営手法の診断による自校の組織としての「強み」と「弱み」

強み	
----	--

弱み	
----	--

- ◆ よりよい組織にするための学校としての改善方向

改善方向	
------	--

【様式4】

学校関係者評価書

四日市市立〇〇〇学校 学校づくり協力者会議

委員長

印

評価項目	評価のまとめ